

札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

- 1.1 北海道全体を支える交通拠点
- 1.2 高速バスの要衝
- 1.3 地区を取り巻く動向
- 1.4 交通結節点としての課題
- 1.5 まちや道路交通の課題
- 1.6 防災における課題

1. 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

1.1 北海道全体を支える交通拠点

札幌市は北海道の交通のカナメとして機能しています。

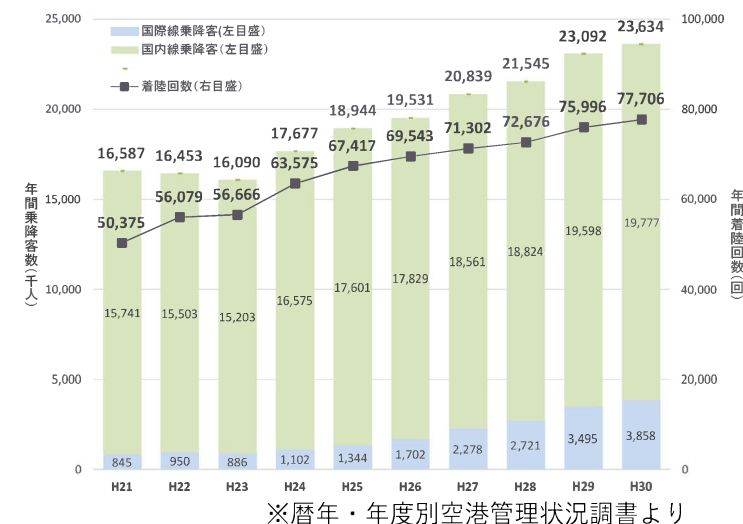
札幌市は、北海道の経済の中心であるとともに、JR在来線に加え、延伸される整備新幹線や高規格道路を活用した都市間バスなどの広域交通が集積する交通の要衝です。

また、札幌駅周辺から小樽港や丘珠空港、年間乗降客数が20,000千人を超える新千歳空港へは、いずれも1時間以内でのアクセスが可能です。

■札幌駅から各交通拠点への所要時間



■新千歳空港の年間乗降客数と着陸回数



1. 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

1.2 高速バス交通の要衝

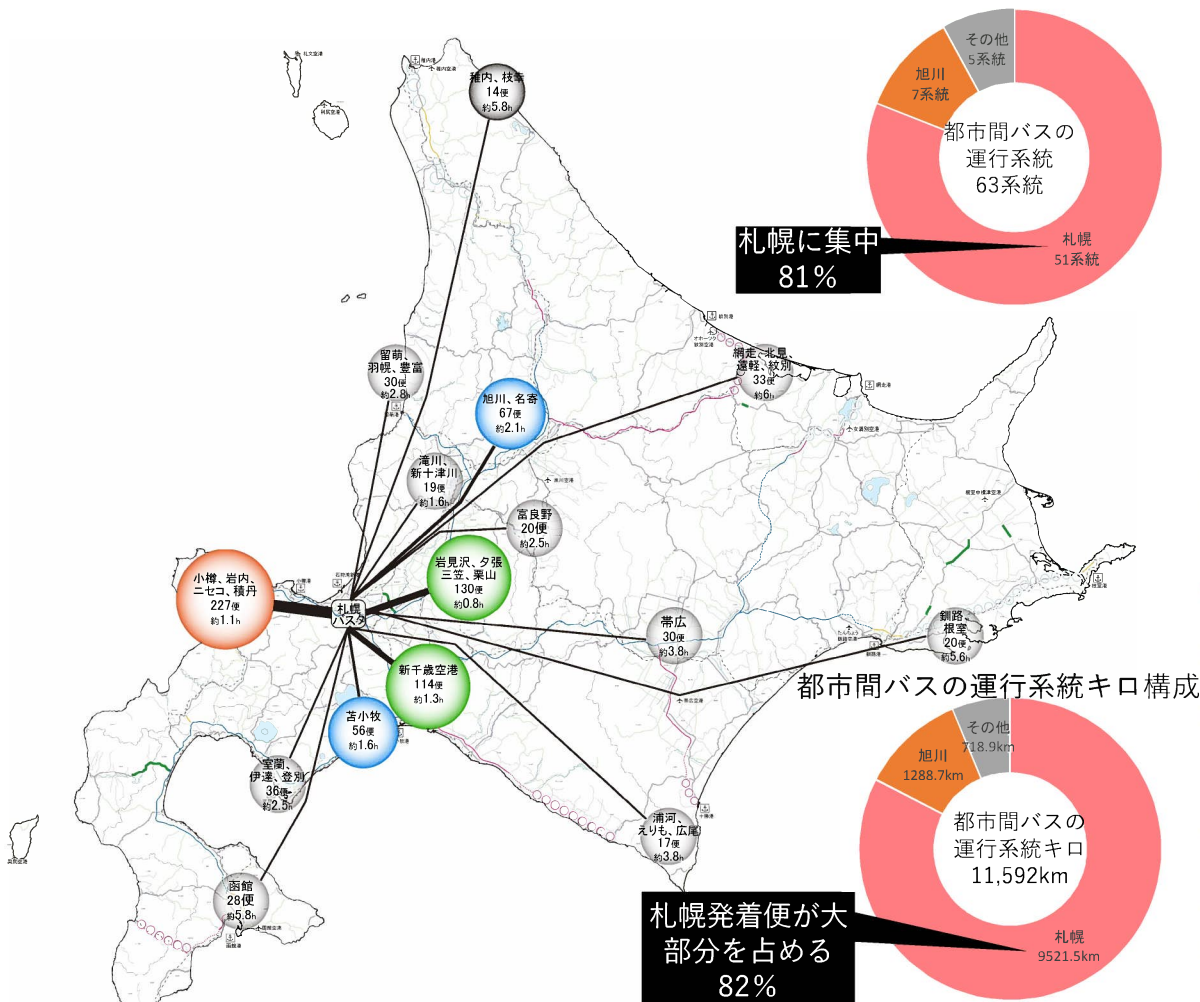
札幌駅は都市間バスのゲートウェイとして機能しています。

札幌駅と道内の主要な都市は都市間バスで結ばれており、札幌駅は道内で運行されている都市間バスの81%が発着しています。また、札幌駅はJR、バス、地下鉄、新幹線といった複数の交通機関が集積する地区であり、道内でも重要な交通拠点となっています。

■都市間バスの運行状況

都市間バスの運行系統構成

■多様な交通が集積する札幌駅



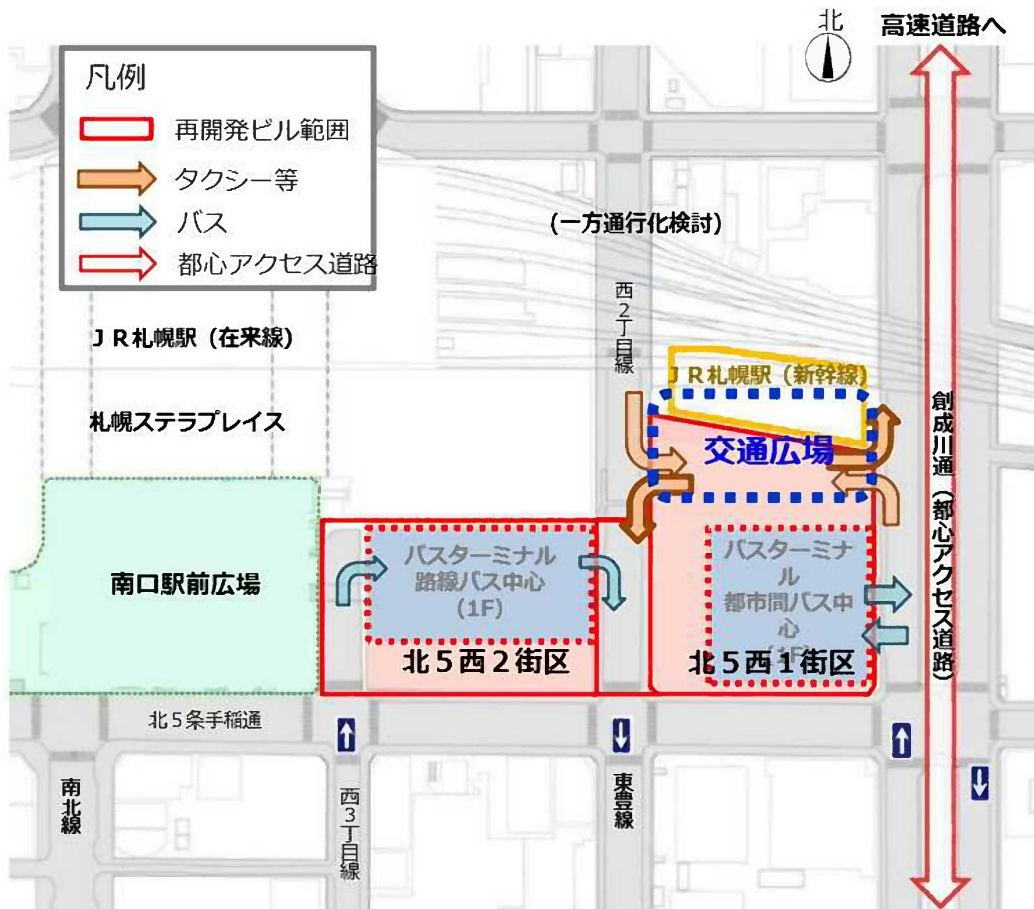
1. 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

1.3 地区を取り巻く動向

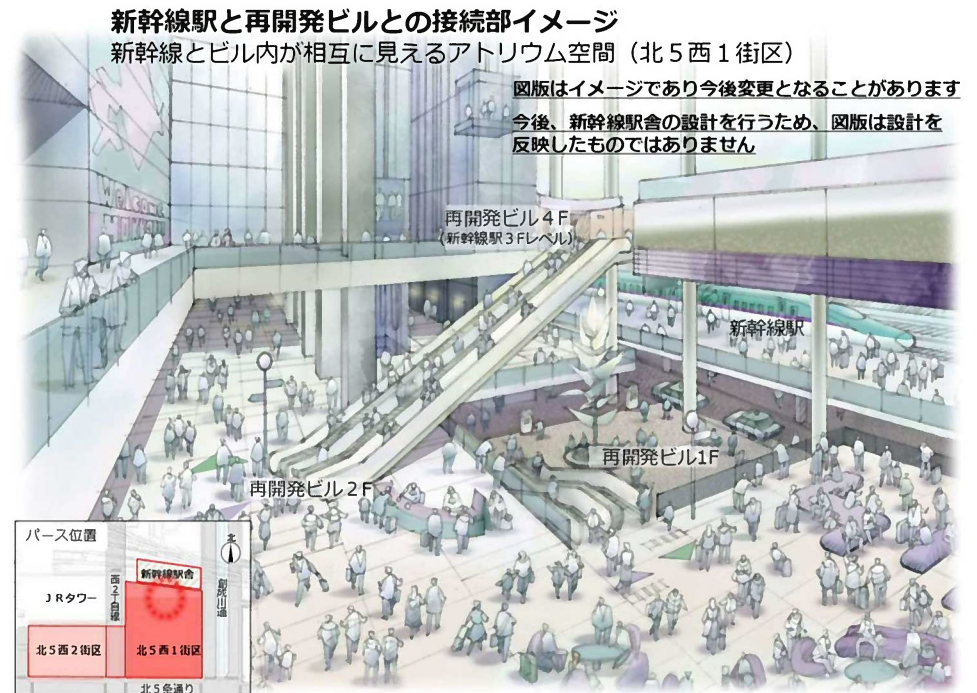
2030年度末には北海道新幹線が札幌に延伸します。

北海道新幹線は2005年（平成17年）新青森～新函館北斗間が着工し、2016年（平成28年）開業、**2030年度末の札幌延伸**に向けて工事が進められています。札幌延伸では、北5西1街区に新幹線新駅の改札を整備予定であり、札幌駅交流拠点北5西1・西2再開発との接続など一体となった整備が必要です。

■新幹線札幌駅と再開発ビルの関係



2019年11月11日JR北海道・札幌市記者発表資料



2020年1月16日JR北海道記者発表資料

1. 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

札幌市は、2030年の冬季オリンピック・パラリンピック招致を目指しています。

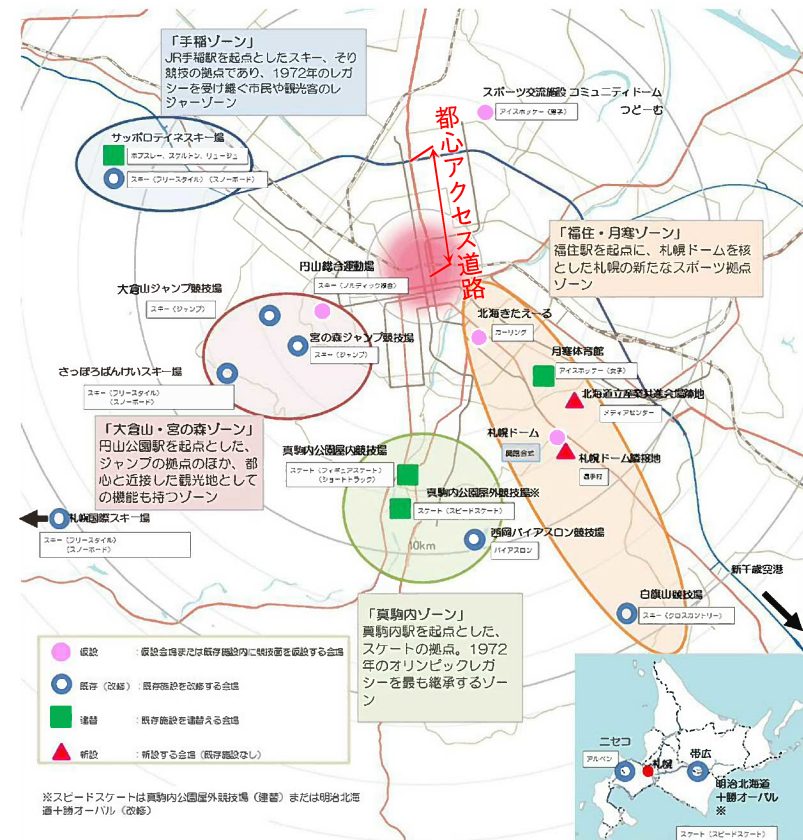
札幌市は2030年の冬季オリンピック・パラリンピック招致に向けて活動中であり、現在、国内候補地として札幌市が決定しています。冬季オリンピック・パラリンピックが開催された場合には、選手、役員、観客の移動について、既存の交通基盤を有効活用するとともに、都心アクセス道路による機能強化等を図っていくことになっています。

■開催提案書（冬季オリンピック・パラリンピック招致開催提案書）



■競技場マップ（冬季オリンピック・パラリンピック招致開催提案書）

1972年大会のレガシーを活かした3つの「メモリアルエリア」（手稲ゾーン、大倉山・宮の森ゾーン、真駒内ゾーン）と、札幌ドームを中心とした新たなスポーツゾーンを形成する「総合スポーツエリア」（福住・月寒ゾーン）で構成。



札幌市資料に加筆

1. 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

創成川通－都心アクセス道路の検討が進められています。

一般国道5号は函館市を起点とし、札幌市に至る延長約282kmの主要幹線道路であり、道南圏と道央圏を連絡する重要な路線です。都心アクセス道路は札幌自動車道と札幌都心部を結ぶ延長約4kmを対象としており、社会資本整備審議会道路分科会北海道地方小委員会において審議を頂き、国土交通省にて地下整備案を対応方針として取りまとめました。今年度は事業化に向けて都市計画変更を進めるための調査を行います。

■道路混雑状況

・北19条交差点付近 夏期

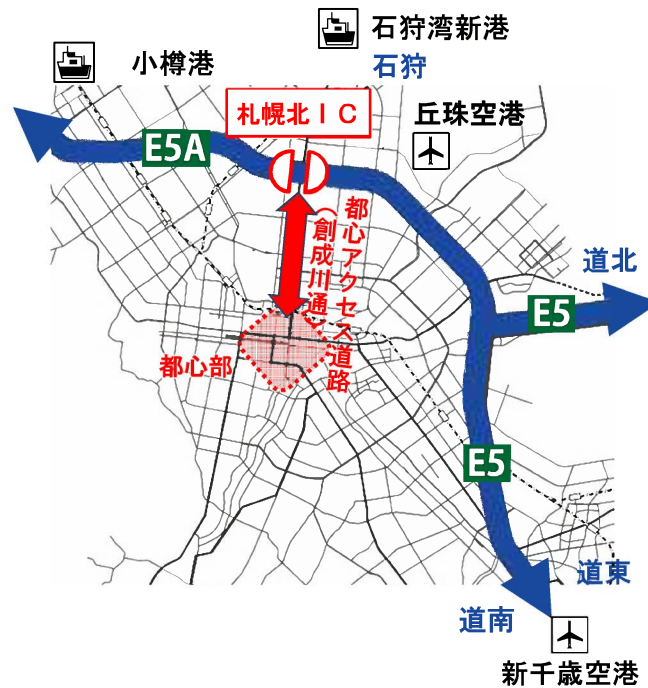


・北19条交差点付近 冬期

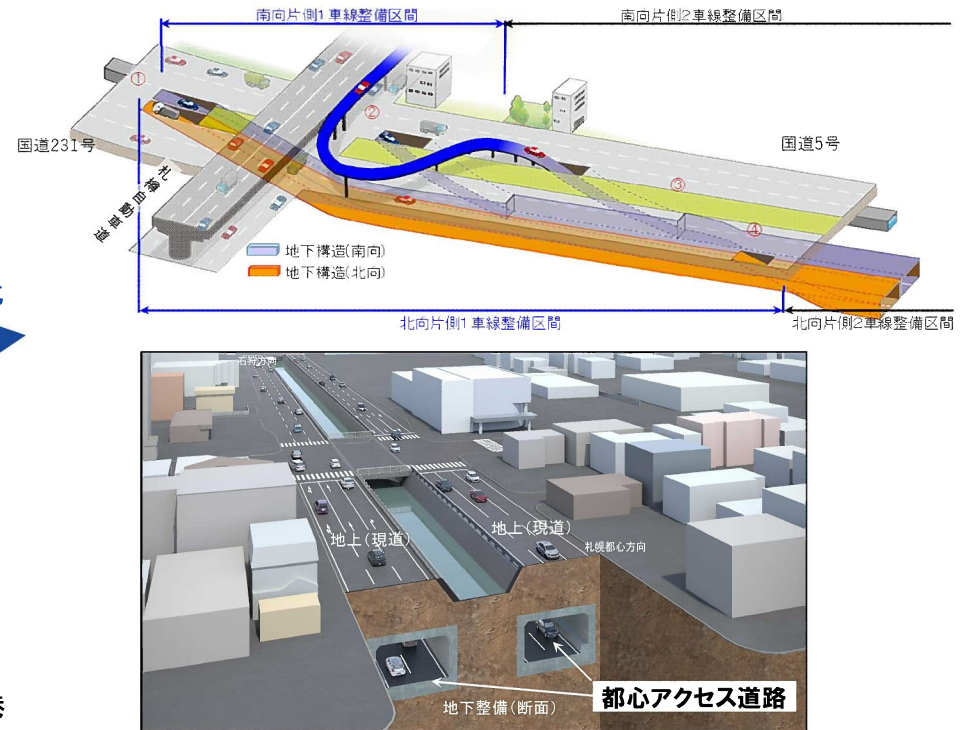


■地域の課題

■創成川通-都心アクセス道路



■整備イメージ（札幌道との交差点付近のCG）



都心機能の最大化（都心アクセス強化）

- 北海道新幹線札幌延伸に伴う都心周辺の再開発と観光需要増加が想定され、北海道全体の成長力をけん引するためにも、札幌都心部と高速道路のアクセス強化が必要。
- 商業施設や宿泊施設等が集中する札幌都心と周辺地域とのアクセスに重要な最寄り高速IC間では、幹線道路との交差点で連続的に混雑が発生し、円滑な交通移動に支障。

企業・経済活動支援（産業）

- 企業や商業、宿泊施設等が集積し、再開発が進む札幌都心部においては、今後ますます人流・物流の需要増加が想定。
- 高速道路へのアクセス道路において混雑や事故が発生し、札幌都心部の企業・経済活動に支障。

暮らし（医療）

- 二次医療圏内の市町村から高次医療施設の集積する札幌市への救急搬送は全体の約4割と大きな割合を占める。
- 一次搬送の約3割が高速道路を利用し、うち6割が中等症以上の速達性が重要な搬送であり、救命率向上のためには高次利用施設への速達性向上が課題。

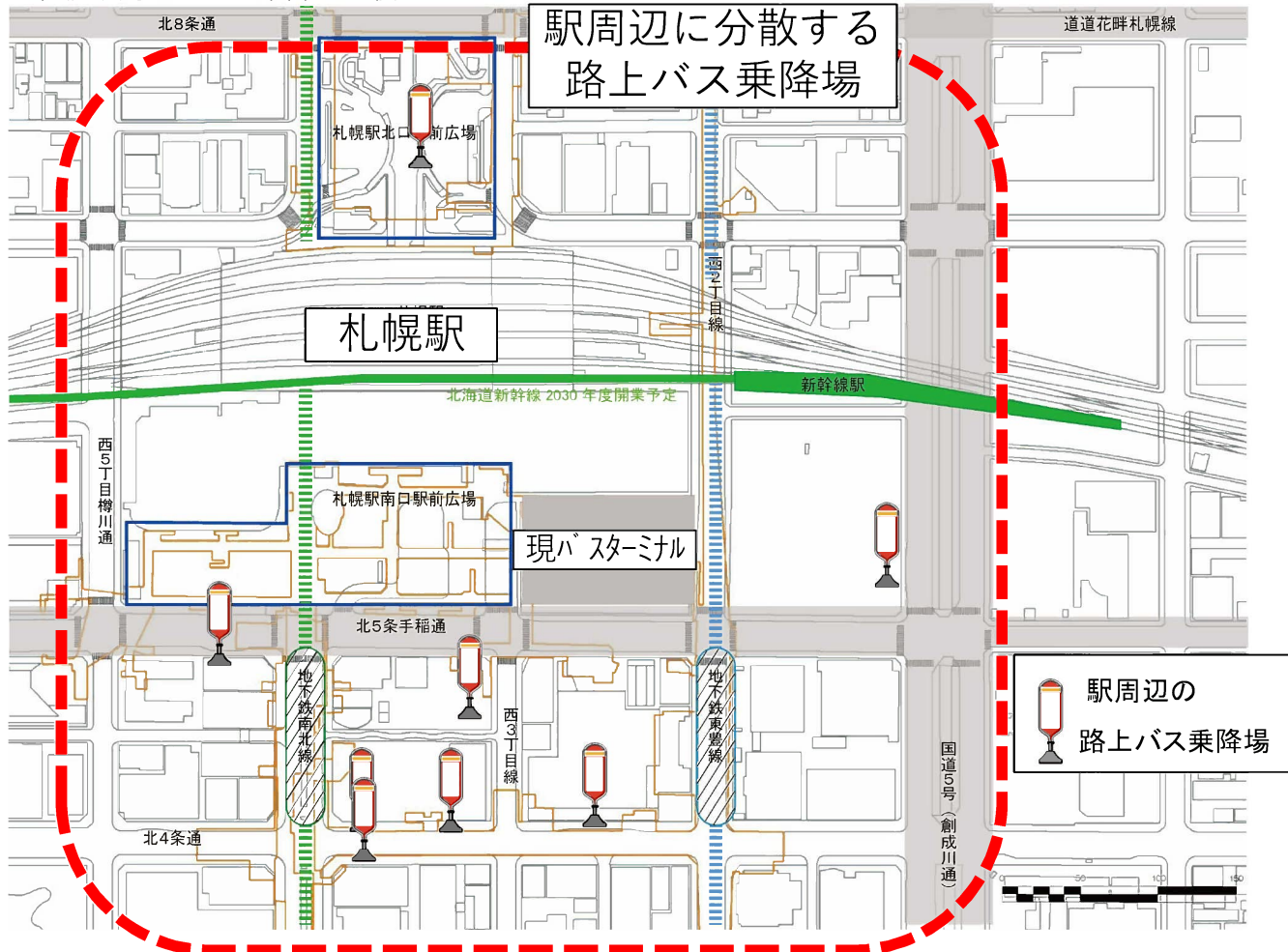
1. 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

1.4 交通結節点としての課題

駅周辺の路上バスの乗降場が分散しているため、相互利用の利便性が低く、円滑な歩行空間が確保できていないことなど課題を抱えています。

駅周辺の路上バス乗降場が8箇所分散しており、乗り換えの利便性が低下しています。また、現バスターミナルにおいても、**通路幅が狭くバス待ちの列と通過する利用者が錯綜**し、円滑な利用を阻害しています。

■札幌駅周辺のバス乗降場の状況



・現バスターミナルの通路状況



・札幌駅周辺バス乗降場利用者による歩道通行阻害



1. 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

1.5 まちや道路交通の課題

札幌駅周辺は、国道5号を含む面的な交通混雑が発生しています。

札幌駅周辺は、都市機能が集積していることや幹線道路が集中していることにより、**面的な交通混雑が発生**しています。冬期は夏期に比べ速度が低下し一層の交通混雑が発生し、バス乗降場付近の交通阻害によりバス運行にも影響が出ています。

■札幌駅周辺の混雑状況など



札幌駅周辺の混雑状況（北6条）



国道5号創成川通の混雑状況



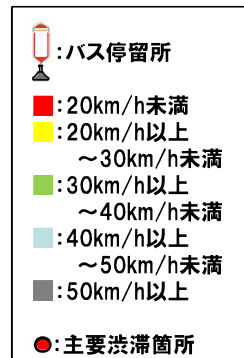
創成川通バス乗降場による交通阻害

■札幌駅周辺の旅行速度

・夏期（平成30年10月 ETCプローブ）



札幌駅周辺で面的に速度低下が発生



・冬期（平成31年2月 ETCプローブ）



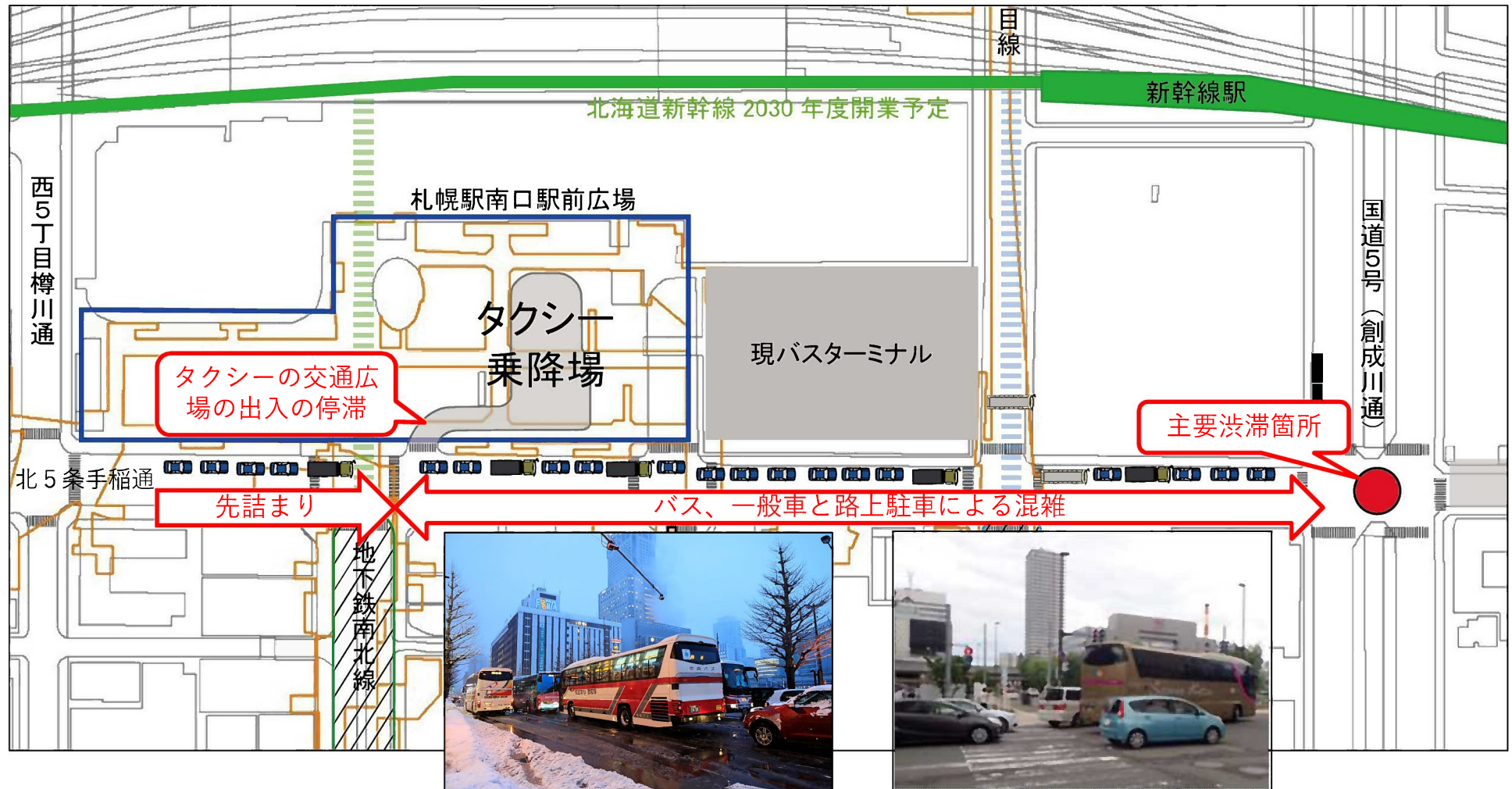
冬期はさらに速度低下が顕著

1. 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

駅周辺の混雑により札幌駅南口交通広場のタクシー乗降場の利便性が低下しています。

- ・北5条手稲通は、バス、一般車と路上駐車による混雑に加え、創成川通交差点に主要渋滞箇所があることから、タクシー乗降場からの出入りが阻害されており、札幌駅でのタクシーを利用する際の利便性が低下しています。
- ・札幌駅交流拠点北5西1・西2再開発と連動した札幌駅南口駅前広場の再配置計画を踏まえた交通施設の検討が必要です。

■札幌駅周辺の混雑状況など



北5条通の混雑状況 (北5西1付近)

主要渋滞箇所(北5条×創成川通)の混雑状況

1. 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題

1.6 防災における課題

北海道胆振東部地震の教訓を踏まえ、災害時の受入空間の確保と避難の支援が必要です。

平成30年の北海道胆振東部地震では、全道的に電力供給が停止したことにより、札幌駅周辺では多くの観光客が行き場を失い、帰宅困難者が滞留する等、災害時の公共交通機能確保や避難場所の確保等に課題があります。日中での地震発生では、都心部に帰宅困難者がさらに多数発生することが想定されるため、一時受け入れや避難者の各地への効率的な輸送において第1次緊急輸送道路である都心アクセス道路（創成川通）の活用や丘珠空港、新幹線、新千歳空港との連携により帰宅困難者の安全な搬送が必要です。

■北海道胆振東部地震による札幌駅周辺の影響



・札幌駅待合所に滞留



・観光客に地下歩行空間を開放

■創成川通の活用と丘珠空港、新千歳空港と連携した避難の支援

